



町を見渡せる高台にある綾町イオンの森(割付町有林)



植樹活動の様子



植えられた苗木は約700本。これまでに約2万本が植樹され、伐採跡地が里山に生まれ変わりつつあります

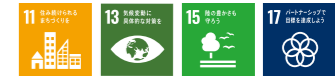


綾町イオンの森散策まっぷは、ユネスコエコパークセンターで配布しています

「豊かな里山になるように」。10月中旬とは思えない炎天下での活動に汗を流す参加者



豊かな里山を 取り戻そう



イオン環境財団、宮崎県、宮崎中央森林組合と協働で行っている「綾町イオンの森」の植樹活動は、10月16日、国文祭・芸文祭みやざき2020の市町村プログラムとして行われ、町内外から130人が参加しました。

イオンの森での植樹活動は2013年にスタート。これまでに延べ2,600人が約2万本の苗木を植樹しています。特に近年は、周辺の日向夏ミカン畑に飛んでくるニホンミツバチの生息環境を整えるため、花が咲く樹木が積極的に植えられています。また、地元の中学生の環境学習の場としても利活用が進んでおり、昨年からは先進技術を活用して樹木の炭素含有量調査が始まっています。

豊かな里山を取り戻そう。綾町から里山の大切さを発信しよう。そんな思いをひとつに植樹に取り組んだ活動の様子を写真でお伝えします。



「皆が訪れ、緑の大切さを知ることができる里山にしよう」と呼びかけたイオン環境財団の山本百合子専務理事

